

証券コード：2397

# 第13期 事業報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

# 株主の皆様へ



代表取締役社長  
的場 亮

してまいりました。そしてさらに、最新の技術を取り入れるとともに、独自技術開発により最先端の研究開発ができる体制を整えて、日本で、世界で急速に進みつつある高齢化社会に向けて、誰もが未病で暮らせるためのツール開発を行ってまいります。

## ■ 当期の経営成績

当期におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とこれに伴う原子力災害の影響により、企業の生産活動や個人消費などの経済活動が一時低迷したものの、徐々に復旧が進み回復基調に転じてきております。しかしながら、欧州の金融不安や米国経済の減速による円高等、依然として先行きは不透明な状況にあります。

当社を取り巻くライフサイエンス分野につきましては、新成長戦略において重要な戦略分野として掲げられ、現実には、社会の急速な高齢化への対処と、癌やメタボリック・シンドロームなどに対する予防医療の必要性が強く打ち出されており、長期的にはライフサイエンス関連環境における需要は安定的に進むものと考えております。また、平成23年7月のアメリカ食品医薬品局 (Food and Drug Administration)(注1) におけるコンパニオン診断薬 (注2) の同時開発に関するドラフト・ガイドラインの策定を機に、我が国においても製薬業界を中心に個人化医療を推進するためのコンパニオン診断薬に関心が高まってきており、当社のこれからの事業の柱である診断事業の推進に対する追い風となってきております。

このような状況下において、当期の目標を「研究開発から事業化へ」と定め、研究受託事業メニューの充実と診断事業の強化による収益構造の改革を推進しております。

この結果、当期の売上高は、401百万円 (前期比67.6%)、営業損失は165百万円で、経常損失は164百万円、当期純損失は165百万円となりました。

## ■ ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼を申し上げます。

バイオテクノロジー分野は目覚しく進歩しており、常に新しい技術が開発され、それをを用いた新しい発見、研究成果などから、様々な産業分野への応用が広がっています。

特に、医療分野における影響は大きく、その結果として、年々平均寿命が伸びてきています。少子高齢化社会を迎え、予防医学を実践するための技術開発、社会インフラ整備が必要とされています。

DNAチップ研究所は設立以来、ライフサイエンス分野を通じて、遺伝子やゲノム研究のエキスパートとして優れた技術開発をしながら、世の中に役立つ、研究開発、商品開発を行い、サービスを展開

## ■ 研究受託

マイクロアレイを使用した受託解析サービスでは、リピート顧客フォローの充実及び全社員営業活動への参加による受注の拡大と、食品・製薬系企業をターゲットとした提案型営業による大型研究受託案件の獲得を推進しました。また、平成23年11月にイルミナ社製のパーソナル型次世代シーケンサシステムMiSeq (注3) を導入し、平成24年度からのシーケンス受託の事業拡大を目指し準備を進めております。

診断事業においては、リウマチ総合診断支援サービス拡販の一環として、提携クリニックの充実を推進するとともに、平成23年9月末から学校法人慶應義塾大学医学部においてリウマチ多剤効果判定の $\alpha$ テストを開始しました。また、関節リウマチ医療分野向けに、米国Apple社が提供するiPad環境 (その互換環境を含む) で稼動するソフトウェア・パッケージ製品「iRIS: 関節リウマチ問診システム」を開発、平成23年4月7日から販売を開始し、平成23年3月に製品発表した臨床研究遺伝子発現データベース・ソフトウェア製品「iCIS-crdb」(注4) とともに販売を推進しました。その結果、iRISは製薬会社や大学病院等へ16セットを納入しましたが、iCIS-crdbについては製薬会社への1セット納入に止まりました。

一方、ゲノム医学解析事業においては、共同研究先の大学、研究機関が東日本大震災の復興財源確保の影響を考慮して研究経費の縮減を図ったため、受注が大きく落ち込む結果となりました。

その結果、当期の売上高は、314百万円 (前期比90.7%) となりました。

## ■ 商品販売

複数の医学系大学から「ハイブリ先生」の受注拡大を推進しておりますが、利益率の確保が難しい一般機器の販売は積極的に行わないこととしたため、受注は大幅に減少いたしました。

その結果、当期の売上高は、86百万円 (前期比35.0%) となりました。

(注1) アメリカ食品医薬品局: 食品や医薬品、さらに化粧品、医療機器、動植物薬、玩具など、消費者が通常の生活を行うに当たって接する機会のある製品について、その許可や違反品の取締りなどの行政を専門的に行うアメリカ合衆国の政府機関である。

(注2) コンパニオン診断薬: 患者ごとに医薬品の有効性や安全性を投与前に判断するための診断検査法。コンパニオン診断薬を使えば特定の治療薬が効く可能性の高い患者を選別できるため、臨床面では高い治療効果が得られ、無駄な治療をしないですむ。

(注3) システムMiSeq: 使い易さを追求し、最速のラン、幅広いシーケンサアプリケーションを可能にしたイルミナ社のコンパクトなデスクトップ型次世代シーケンサである。

(注4) iCIS-crdb: 臨床現場で研究に必要なデータをデータベース化した統合臨床インフォマティクス・システム「iCIS」のファミリー製品である。

平成24年6月

代表取締役社長 的場 亮

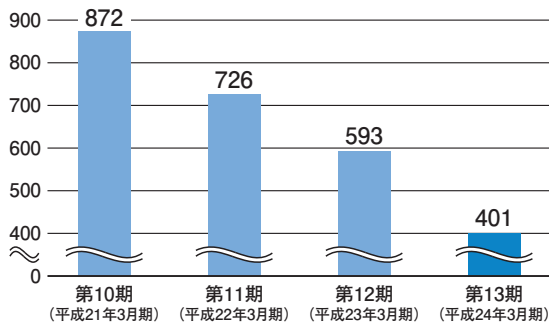
## Contents

● 株主の皆様へ	1	● 事業の内容	5
● 財務諸表	3	● 会社の概況	6



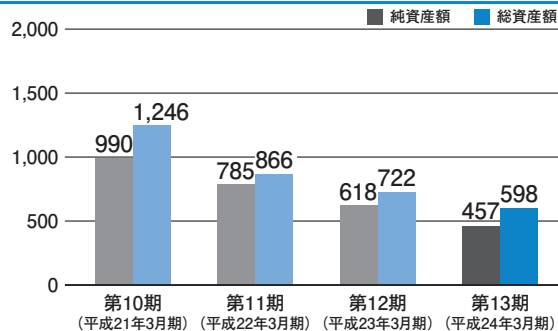
### 売上高

(単位：百万円)



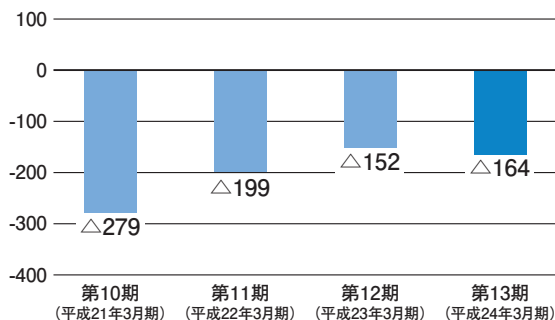
### 純資産額／総資産額

(単位：百万円)



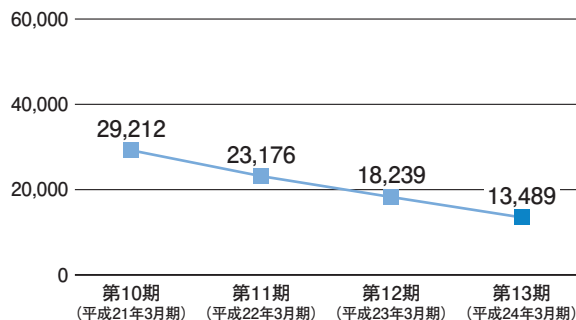
### 経常利益

(単位：百万円)



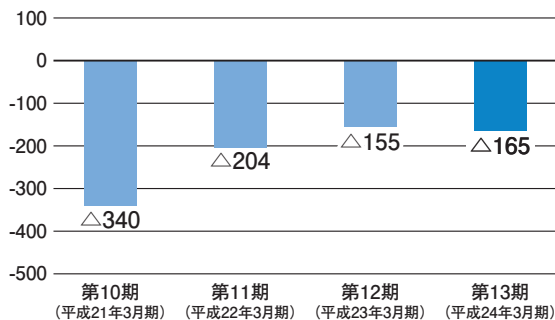
### 1株当たり純資産額

(単位：円)



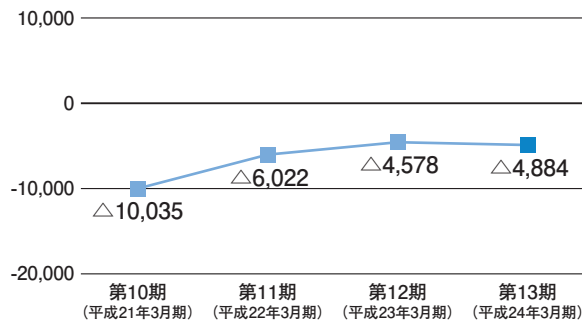
### 当期純利益

(単位：百万円)



### 1株当たり当期純利益

(単位：円)



# 財務諸表

## 貸借対照表

(単位：千円)

科目	前事業年度 平成23年3月31日	当事業年度 平成24年3月31日	科目	前事業年度 平成23年3月31日	当事業年度 平成24年3月31日
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>659,728</b>	<b>525,474</b>	<b>流動負債</b>	<b>102,569</b>	<b>138,711</b>
現金及び預金	302,393	261,001	買掛金	67,647	90,857
受取手形	25,006	18,105	未払金	2,428	18,766
売掛金	310,128	231,774	未払消費税等	4,987	558
商品	15,001	11,219	未払法人税等	3,358	3,194
仕掛品	2,569	—	未払費用	22,730	22,214
未収入金	126	—	預り金	1,417	3,120
その他	4,502	3,373	<b>固定負債</b>	<b>1,878</b>	<b>2,258</b>
<b>固定資産</b>	<b>62,984</b>	<b>72,739</b>	退職給付引当金	1,878	2,258
<b>有形固定資産</b>	<b>25,001</b>	<b>31,195</b>	<b>負債合計</b>	<b>104,448</b>	<b>140,970</b>
建物	104	89	<b>純資産の部</b>		
工具、器具及び備品	24,897	31,105	<b>株主資本</b>	<b>630,904</b>	<b>465,324</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>857</b>	<b>582</b>	資本金	1,116,368	1,116,368
ソフトウェア	275	—	資本剰余金	1,028,918	1,028,918
施設利用権	582	582	資本準備金	1,028,918	1,028,918
<b>投資その他の資産</b>	<b>37,125</b>	<b>40,962</b>	利益剰余金	△1,514,382	△1,679,961
投資有価証券	35,971	40,000	その他利益剰余金	△1,514,382	△1,679,961
その他	1,154	962	繰越利益剰余金	△1,514,382	△1,679,961
<b>資産合計</b>	<b>722,712</b>	<b>598,214</b>	<b>評価・換算差額等</b>	<b>△12,640</b>	<b>△8,080</b>
			その他有価証券評価差額金	△12,640	△8,080
			<b>純資産合計</b>	<b>618,264</b>	<b>457,244</b>
			<b>負債及び純資産合計</b>	<b>722,712</b>	<b>598,214</b>



## 損益計算書

(単位：千円)

科 目	前事業年度		当事業年度	
	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日		自平成23年4月1日 至平成24年3月31日	
売上高	593,597		401,096	
売上原価	470,962		334,405	
売上総利益	122,635		66,690	
販売費及び一般管理費	276,400		231,969	
営業損失(△)	△	153,765	△	165,278
営業外収益	1,698		1,267	
受取利息及び配当金	1,377		1,267	
その他	320		0	
営業外費用	—		31	
その他	—		31	
経常損失(△)	△	152,066	△	164,042
特別利益	9,892		2,634	
国庫補助金	9,892		2,634	
特別損失	12,061		3,220	
固定資産圧縮損	9,892		2,634	
投資有価証券評価損	2,169		530	
その他	—		55	
税引前当期純損失(△)	△	154,235	△	164,629
法人税、住民税及び事業税	950		950	
法人税等調整額	—		—	
当期純損失(△)	△	155,185	△	165,579

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日		自平成23年4月1日 至平成24年3月31日	
営業活動による キャッシュ・フロー	△243,457		△37,829	
投資活動による キャッシュ・フロー	△4,947		△3,562	
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△248,404		△41,392	
現金及び現金同等物の 期首残高	550,798		302,393	
現金及び現金同等物の 期末残高	302,393		261,001	

## 株主資本等変動計算書

(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本						評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計				
当期首残高	1,116,368	1,028,918	1,028,918	△1,514,382	△1,514,382	630,904	△12,640	△12,640	618,264
当期変動額									
当期純損失				△165,579	△165,579	△165,579			△165,579
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)							4,560	4,560	4,560
当期変動額合計	—	—	—	△165,579	△165,579	△165,579	4,560	4,560	△161,019
当期末残高	1,116,368	1,028,918	1,028,918	△1,679,961	△1,679,961	465,324	△8,080	△8,080	457,244

# 事業の内容

## ■ 研究開発

DNAチップ研究所は、ライフサイエンス研究とバイオ産業に貢献する研究開発型ベンチャー企業です。以下を常に心がけ、研究に取り組んでいます。

1. 「創造的革新」をモットーに
2. グローバル化を意識した最高レベルの技術を磨き
3. 信頼関係に基づく共同研究と自己啓発に努め
4. 国際的情報収集、先進的情報解析能力を駆使し
5. この分野で第一の研究ベンチャーとして
6. レベルの高い研究成果を出すのに貢献する

## ■ 研究テーマ

### →RNAチェック™

- 関節リウマチに関する研究
- 大腸癌診断用チップの開発とそれを用いたステージⅡ大腸癌の予後予測
- 悪性神経膠腫（グリオーマ）の予後予測アルゴリズムの開発
- 疲労
- 免疫年齢

### →ゲノム医学

- ジェノタイピングから臨床遺伝統計解析までのゲノム医学解析
- 突発性疾患、遺伝性疾患、多因子疾患、先天異常等それぞれの疾患に適した解析アルゴリズムを用いたCNV解析

## ■ 受託サービス

異なるプラットフォームを用いた多面的な研究受託サービスメニューの提供をいたします。実験計画のお手伝いから、実験、統計解析、論文作成など専門のスタッフが細やかにサポートいたします。



- マイクロアレイを用いた遺伝子発現解析、miRNA発現解析、ゲノム構造解析、メチレーション解析
- Real Time PCRによる遺伝子発現解析、miRNA発現解析
- 次世代シーケンサを用いた遺伝子発現解析、メチレーション解析
- 統計解析サービス

## ■ 製品／診断サービス（研究用）

### 製品

-  ハイブリ先生 教育用DNAチップ教材

### 診断サービス（研究用）

-  リウマチチェック 関節リウマチ生物学的製剤インフリキシマブの効果予測検査サービス
- iCIS 臨床現場で研究に必要なデータをデータベース化する臨床インフォマティクス支援ソリューション
- iRIS 臨床現場向けの簡易な症状入力と診断情報の入力可能な問診システム
-  MammaPrint（マンマプリント） 乳癌の再発リスクを予測する新しい検査サービス



# 会社の概況

## ■ 会社概要

**会社名** 株式会社 DNAチップ研究所  
**英文名** DNA Chip Research Inc.  
**設立年月日** 1999年4月1日  
**住所** 神奈川県横浜市鶴見区末広町1-1-43  
**資本金** 111,636万円  
**従業員** 25名 (内Ph.D. 5名)  
**役員** 代表取締役社長 的場 亮  
           取締役 松原 謙一  
           社外取締役 (非常勤) 田村 卓郎  
           社外監査役 今井 庸介  
           監査役 (非常勤) 大塚 榮子  
           社外監査役 (非常勤) 吉田 春樹  
**加盟団体** 社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム(JBIC)  
           財団法人バイオインダストリー協会(JBA)  
           NPO法人 バイオチップコンソーシアム (JMAC) 等

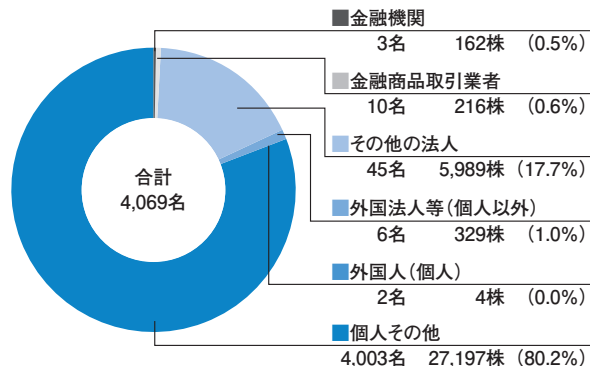
## ■ 株式の状況

①発行可能株式総数 100,800株  
 ②発行済株式総数 33,897株  
 ③株主数 4,069名

## ■ 大株主

株主名	持株数	持株比率
株式会社日立ソリューションズ	3,266株	9.6%
松原 謙一	1,340株	4.0%
森 淳彦	700株	2.1%
枝松 七郎	634株	1.9%
株式会社サン・クロレラ	550株	1.6%
藤尾 晋作	494株	1.5%
大塚 榮子	480株	1.4%
サン・クロレラ販売株式会社	460株	1.4%
坪田 博之	383株	1.1%
井上 伸一	338株	1.0%

## ■ 株主分布状況



## ■ 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

剰余金の配当 3月31日（期末配当金）

受領株主確定日 9月30日（中間配当金）

定時株主総会 6月

公告掲載方法 電子公告

電子公告は当社のホームページに記載しております。

ホームページアドレス

(<http://www.dna-chip.co.jp/>)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

（郵便物送付先） 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
（連絡先） 〒137-8081  
東京都江東区東砂七丁目10番11号  
電話 0120-232-711（通話料無料）

### ・住所変更等のお申出先について

お取引口座のある証券会社にお申出ください。ただし、特別口座に記録された株式に係る各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

## ■ 当社ホームページのトップ画面



<http://www.dna-chip.co.jp/>